

# 働き方改革推進時代の企業の健康管理におけるIoT活用推進プロジェクト

ヘルスケアインダストリ部会／ヘルスケアIT研究会がIoT推進ラボを通じて提案した実証テーマ「働き方改革推進時代の企業の健康管理におけるIoT活用推進プロジェクト」が採択され、経済産業省主導のもと、2017年12月4日よりフィージビリティスタディ実証が開始されました。

## 発足60周年、医療に加えヘルスケアをスコープに

ヘルスケアインダストリ部会は、昨年度まで「ヘルスケアインダストリ事業委員会」として活動していましたが、Society5.0の実現するために、JEITAが他業界との共創をより一層進め、成長分野へのシフトを強化するために、2017年4月より、改組しました。

元々、発足は1958年で、これまで医用電子機器の法制度や技術課題への対応、標準化の推進を中心に様々な取り組みを行ってきましたが、超高齢化が急速に進展し、政府は国民の健康寿命の延伸を成長戦略の一つとして掲げたこと等を受け、2015年に「ヘルスケア」をスコープに加え、現在に至ります。この「ヘルスケア」をヘルスケアインダストリ部会の中で主に担う組織が「ヘルスケアIT研究会」です。対象テーマは、在宅、介護、見守り、予防、健康でまさに我々の生活に密接に関係するものであり、他分野との機器・サービス連携が期待されているものです。

これまでは遠隔在宅医療の普及に係る活動や、地域包括ケアシステムにおける課題・仕組みについて有識者との意見交換等を重ねてきました。

## 行政の実証事業に提案・積極参加

ヘルスケアIT研究会の活動は、昨今、国の実証事業に携わる機会が増えており、昨年は健康・医療情報のデータ活用の促進に向けて、経済産業省ヘルスケア産業課からの要請により「次世代ヘルスケア産業協議会 健康投資

ワーキンググループ 企業保険者等が有する個人の健康・医療情報を活用した行動変容に向けた検討会／交換規約検討WG」に参画し、健康・医療情報のデータベースの構築にあたり、各事業者から共通したデータ（種類・精度・形式等）を収集すること目的としたデータ交換規約の作成に協力をしました。そして、今年度は、IoT推進ラボを通じて提案した実証テーマ「働き方改革推進時代の企業の健康管理におけるIoT活用推進プロジェクト」が採択され公募の末、企画段階から密に相談を進めていたシンクタンクが入札しました。

こちらのプロジェクトは、個人を取り巻く環境や働き方が多様化（例：テレワーク・副業）する中、従来の労務・健康管理方法（労働時間を基本に据えた管理、長時間労働者への産業医の面談など）のみでは、個人の健康状態等を的確に把握し、適切な対策を講じていくことは困難になりつつあるため、ウェアラブル等IoTを活用し、次世代の労務・健康管理方法を検討していくことによって、今後多様化する働き方等に対応できる労務・健康管理システムの構築をめざすものです。

具体的には、IoTを活用し、早期に労働者の異常を察知する「労働時間」以外の定量指標と計測方法の候補を抽出し、また、それらを活用した新たな労務・健康管理のあり方を検討し、導入時や法的な課題を明らかにしていきます。

今回の実証に用いられる機器は2種類で、1つは、集中度を測定できるメガネ型のウェアラブル、もう1つは、睡眠時間とその質を測るリストバンド型のウェアラブルであり、スマートフォンのアプリを介してデータを収集し、心身の疲労蓄積により、各データの数値に変化がみられるかどうか検証を行います。実証結果は、データ分析等を経て今年度中に取りまとめられる予定で、次年度以降の本実証に繋げることができるよう、行政も含め積



極的に議論を行い、ヘルスケア分野から機器・サービス・IoT活用の新たな可能性を引き出していきます。

今後も我が国が抱える様々な社会課題に対し、解決の一翼をヘルスケアが担えるように行政－会員企業間の連携はもとより、他業界との連携を視野に入れながら、業界の発展に努めてまいります。

### 「○○○ × ヘルスケア」コンファレンスを開催

ヘルスケアインダストリー部会／ヘルスケアIT研究会では、近年、ヘルスケアウェアラブルデバイスの普及が進み、従来の健康管理等の範疇を超え様々なシーンで活用されるようになり、今後は、ウェアラブル以外のセンサからのデータも融合させての分析にも期待が寄せられていることを背景に、CEATECにて「ヘルスケアウェアラブルとIoT活用の今と未来」と題し、コンファレンスを行いました。

今回のコンファレンスでは、様々な用途でウェアラブルの活用が検討される中、健康・予防、働き方改革、業務運転者の安全管理、ユーザ目線の4つの切り口で、政府の取り組みや活用事例など最新事情を各講師に紹介いただき、共通の課題となる問題を考える機会を参加者へ提供しました。

また、パネルディスカッションでは、「ヘルスケア分野におけるIoT活用に求められること」を主テーマに、

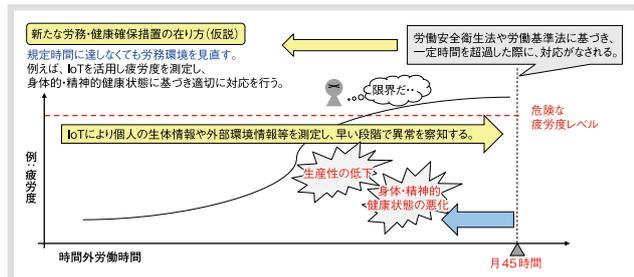
今後の普及・市場活性化に必要な不可欠な課題として“デバイスの精度とオープン化はどちらを優先していくべきか”“デバイスはどの部分で独自性を出していくべきか”などが挙げられ議論が行われました。その中で各方面から「オープン化を優先すべきであろう」とのコメントが寄せられたことや、標準化の有効性に触れられるなど、限られた時間ではありましたが、参加者にとっては有意義な機会に感じていただけたと思います。

### プログラム 「ヘルスケアウェアラブルとIoT活用の今と未来」

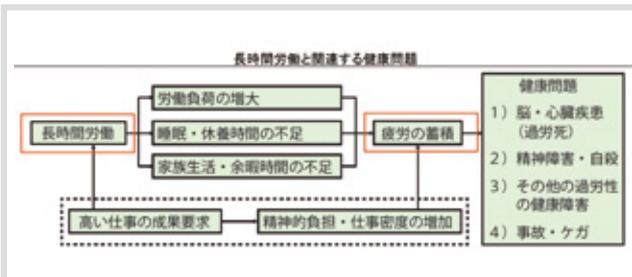
- 講演
- 健康・医療・介護分野における取組 ～ウェアラブル・データ活用を中心に～  
経済産業省 ヘルスケア産業課長 西川和見 氏
  - ウェアラブル等を活用した新時代の働き方改革  
経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策室 室長補佐 弁護士 白石純一 氏
  - プロドライバーの健康・過労起因事故防止とウェアラブル・デバイスにできること  
安全運行サポーター協議会 安全・健康プラットフォームWG主査 北島洋樹 氏 ((公財)大原記念労働科学研究所) 安全・健康プラットフォームWG副主査 新藤幹雄 氏 ((株)タニタ)
  - ユーザ目線で見た自動車安全におけるヘルスケアデバイスの活用と課題  
東京海上日動リスクコンサルティング(株) 自動車リスク本部 本部長 阿部 光一朗 氏

- パネルディスカッション
- ヘルスケア分野におけるIoT活用に求められること
  - モデレータ: JEITAヘルスケアIT研究会 主査 鹿妻洋之 氏 (オムロンヘルスケア(株))
  - パネリスト: 上記講師のうち 西川氏、白石氏、新藤氏、阿部氏
  - ディスカッションテーマ
    - ① データ取扱い視点で、正しく“着けない”“測らない”“送らない”に起因する欠損やノイズをどう考え、解消すべきか
    - ② デバイスの精度とオープン化は、どちらを優先していくべきか
    - ③ 精度、オープン化後、デバイスはどの部分で独自性を出していくべきか
    - ④ アプリケーションの分野ごとに求められる精度は異なると思われるが、どの程度の水準が求められそうか。

### 【働き方改革推進時代の企業の健康管理におけるIoT活用推進プロジェクト 概念図】



出所:株式会社日本総合研究所 作成



出所:行政法人労働安全衛生総合研究所「長時間労働者の健康ガイド」